

大塚敬節
責任編集
矢数道明

世漢方医学書集成

26

宇津木昆台 三

名著出版
刊



南京中医药大学图书馆版权所有

近世漢方医学書集成 第Ⅰ期・全30卷

ISBN4-626-00072-X C3347

近世漢方医学書集成 26 宇津木昆台(三)

第Ⅰ期
全30卷

昭和五十五年二月二十二日 第一刷発行
昭和六十一年六月二十五日 第二刷発行

編者 大塚 敬節

発行者 中村 安孝

発行所 株式会社 名著出版

東京都文京区小石川三ノ十ノ五
電話東京(八一五)一二七〇番代
振替口座 東京七一二七四九番

製版所 株式会社 日本写真製版所

印刷所 有限会社 伊藤印刷

製本所 株式会社 辻本製本



予約限定版

落丁本・乱丁本はお取替えます。

ISBN4-626-01219-1 C3347

責任編集

大塚 敬節

矢数 道明

編集委員

山田 光胤

寺師 睦宗

大塚 恭男

矢数 圭堂

松田 邦夫

凡 例

一、本書二十六卷「宇津木昆台(三)」には、『古訓医伝』卷十二―卷十六(「風寒熱病方経篇」六―七、「風寒熱病方緯篇」一―三)までを収録した。

一、本書は全て影印版によつて収録したが、影印にあつては次のようにした。

イ、新たに柱と頁数を付した。

ロ、底本を縮少し、一頁に半丁ずつ収めた。

ハ、裏表紙や記事のない白紙は省略した。

ニ、本文中の蔵書印及び所蔵者による書き込み等は、全て省略した。

ホ、印刷不明な箇所は、他の版本等により補正したところもある。

一、底本は次の通りである。

古訓医伝 版本(天保十二年版)二十五卷二十五冊(大塚敬節、矢数道明所蔵)

一、本書収録書目の解題については、第二十四卷「宇津木昆台(一)」に記した。

宇津木 昆台 三

目次

凡例.....三

古訓医伝

卷十二 風寒熱病方経篇六.....三

并少陽病脈證并治法第四.....五

并太陰病脈證并治法第五.....二

并少陰病脈證并治法第六.....四

卷十三 風寒熱病方経篇七.....二五

并厥陰病脈證并治法第七.....二七

卷十四 風寒熱病方緯篇一.....三一

并霍乱病脈證并治法第一.....二三

并陰陽易差後勞復病脈證并治法第二.....三五

弁瘰濕喝病脈證并治法第三	二四九
弁百合狐惑陰陽毒病脈證并治法第四	三〇五

卷十五 風寒熱病方緯篇二	三四一
--------------	-----

弁瘧病脈證并治法第五	三四三
弁中風歷節病脈證并治法第六	三七一
弁血痺虛勞病脈證并治法第七	四三一

卷十六 風寒熱病方緯篇第三	五三
---------------	----

弁肺痿肺癰肺脹欬嗽病脈證并治法第八	五五
弁奔豚氣病脈證并治法第九	五六九
弁胸痺心痛短氣病脈證并治法第十	五八三
弁腹滿寒疝宿食病脈證并治法第十一	六〇九

古訓医伝

卷十二―卷十六

古訓
醫傳

風寒熱病方經篇

六

溫知堂醫藥院藏書							
No.							
缺完	入手	刊寫	年代	流派	著者	書名	
卷	昭和 年						
卷	月						
冊	日						

矢數道明藏書

古訓醫傳卷十二

尾張

宇津木益夫述

風寒熱病方經篇

○辨少陽病脉證并治法第四

少陽病ノ變化奇正ハ、太陽下篇ニ於テ、盡ク論定スト雖、彼ノ處ニモ云シ如ク、表裏アリテ後、其中間ハ出來ルガ頃ナレバ、其頃ヲ受テ、篇目ハ陽明篇ノ後ノ、コノ處ニ出シタルナリ、凡ソ部位ノ淺深ヲ云片ハ、少陽ハ陽明ヨリ淺ク、上ナリ外ナリノ處ナレバ、變化ハ太陽下篇ニ説キ尽シ、コノ處ニテハタゞ凡例ト、本条ハ、小柴胡湯ノ一方ヲ舉タレバ、餘ハ太陽上下篇、并ニ陽明篇ニ就テ、正變ノ病狀ヲ考フベシ、

前ニモ云シ如ク、少陽ノ部位ハ、側卧シテ上ヘ出タル処ナレド、病ヲ生ズルニ至リテハ、陽病ノ一故ニ、上リ進ム勢アリテ、心胸以上ニ事アリト知ルベシ、委シク云ントナラバ、頸項ヨリ、口、咽、心、胸、脇、肋等ニ事ノアル者ハ、皆少陽部位ノ病ナリ、

□少陽之為病、口苦、咽乾、目眩也、

コノ凡例ハ、少陽自癸ノ正面目ヲ示シタルナリ、夫三陽ノ大体ヲ云ヘバ、太陽ハ頭項、陽明ハ腸胃、少陽ハ胸脇ナレド、胸脇ト云片ハ、柴胡ノ一証ニ、偏倚スルニ似タレバ、廣ク少陽ヲ統ベ括ルニハ、事タラズ、故ニコノ処ニハ胸脇ト云ズ、口苦、咽乾、目眩ヲ以テ、廣ク少陽ノ部屬ヲ、統ベ括リタルモ

ノニテ、胸膈ハコノ中ニコモレリ、且前篇ノ梔子豉湯部類、
結胸部類、瀉心部類、ソノ外柴胡部類ハ云ニ及バス、苓桂朮
甘湯部類ニ至ルマデ、皆少陽部位ノ病者ナレバ、其變化ハ、
太陽陽明ヨリモ廣シト知ルベシ、サテコノ凡例ハ、自癸ノ
少陽故ニ、傷寒等ヨリ来ル病者ニ比スレバ、上行ニツレテ、
位高ク見ユルナリ、夫胸中ニ氣血滯ル片ハ、氣熱胸ニ生ジ
テ上行シ、水血コレガ爲ニメグラズシテ、口苦クナル、コレ
氣熱ノ血ヲメグラサバルヨリ来レリ、其上ニ水モ亦メグ
ラザル故ニ、咽乾クナリ、血和セズ水メグラザル片ハ、氣熱
ノ上行イヨク甚シクナリテ、目眩ヲアラハスナリ、已上ノ
証ハ、胸膈ニ憂アリテ、柴胡部類ノカ、ル証ニモアリ、又梔

子鼓湯并ニ瀉心湯、陷胸湯部類ニモアリ、故ニ廣シ口苦、咽乾、目眩ト云テ、少陽ヲ統括リタルナリ、然レモ其実ハ柴胡湯部類ノ、脇下ノ痙多キ故ニ、コノ篇ノ本条ニハ、脇下鞭滿ト云テ、少陽本部ノ正面目ヲ知ラシメタリ、先コノ凡例ハ、自發ノ少陽病ヲ主トスレバ、已上ノ意ヲ以テ、其大概ヲ會得スベシ、

口少陽中風、兩耳无所聞、目赤、胸中滿而煩者、不可吐下、

コレ中風ノ邪来リテ、少陽ノ部ヲ侵ス者ヲ示シタルナリ、外邪来リテ、少陽ノ部ヲ動搖スル片ハ、心胸ノ氣其動搖ニツレテ上逆ス、故ニ上頭面ニ迫リテ、兩耳无所聞、目赤ナレリ、コレ中風ノ爲ニ、心胸ノ氣動搖セラレタル勢ノ、上逆シ

テ然ルナリ、凡ソ熱病ニテ、耳ノ聞ヘザル者ハ、皆少陽ニ熱
アリテ、上逆スル者ナリ、目ノ赤クナルモ亦然リ、サテ自発
ノ少陽病ハ、心胸ノ氣ノ上逆ノミニシテ、目眩ナレバ、中風
ハ外ヨリ動搖スルヲ以テ、其上逆ノ勢、一等強クナル故ニ、
目中マデモ熱ヲ帶テ赤クナルナリ、此ノ如クニ上逆強キ
故ニ、心胸ノ迫リモ亦劇シ、故ニ胸中滿而煩ヲナスナリ、コ
レ胸中ニ、水血トモニ滯リテ滿ヲナシ、氣マスキ迫ル故ニ、
煩スルナリ、然レバ少陽ハ表ヨリハ深く、裏ヨリハ淺シ、故
ニ右ノ如ク裏ニ水血ヲカラミテ、胸中滿而煩ヲナストイ
ヘバ、吐下スベキ証ニアラズ、回テ不可吐下ト置リ、且コノ
証ノミナラズ、少陽ノ大例ハ、吐下發汗凡ニアシ、故ニ次